

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300283
法人名	医療法人 辻井循環器科内科
事業所名	グループホームつじい
所在地	愛媛県東温市田窪253-2
自己評価作成日	平成 21年 11月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 12月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な良い環境の中で、利用者さんがゆっくりと楽しく過ごされている。
職員がよく努力しており、明るく利用者さんと接する事ができている。
主治医や管理者の指導のもと、健康管理が行き届いており急変時にも職員がすぐに対応できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人のため、24時間体制での連携が整備されている。きめ細かい健康管理や、緊急時の迅速な対応が可能なことは、利用者や家族にとって安心できる。開設から約8年を経過し、利用者も職員も定着して落ち着いた生活を送っている。南面に広い庭があり、自然の空気に触れたり、天気の良い暖かい時間にはひなたぼっこ、体操、歌など、利用者は穏やかに自由に過ごしている。職員は、明るく元気の良い挨拶を心がけ、利用者一人ひとりを尊重することを常に忘れない姿勢でケアにあたっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームつじい

(ユニット名) 西館

記入者(管理者)

氏名 辻井 浩子

評価完了日 平成 21 年 11 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ホール内に掲示しており、ミーティングなどで実践をうながしている。管理者より朝の申し送り時、随時指導を受けている。</p> <p>(外部評価) 「利用者の個性を尊重し、地域と共に共存し生活する」をホーム開設時より社訓として掲げている。より具体化した理念の中にも「地域との交流を大切にする」ことを含めている。管理者を中心に全職員は、理念を共有して実践につなげられるよう、日々努力している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) いのこ、地方祭、敬老会などの年間行事を通して交流を持っている。 2ヶ月に1回の連絡協議会で交流を持っている。</p> <p>(外部評価) 神社の夏祭り、秋祭りの獅子舞、亥の子、市民運動会等の地域行事に参加したり、どんと焼きにも区長さんの声かけのおかげで参加できるようになっている。気分転換の散歩の途中に挨拶を交わしたり、近隣の方から季節の作物を届けてもらうなど、交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症に対する介護方法や理解などの相談に、いつでものれるようにしている。ボランティアや研修の受け入れ態勢がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で出た意見を取り上げ、職員間で話し合っている。また、会議後に会議の内容の報告書も配布している。	
			(外部評価) 外部評価の内容報告やホームの課題について話し合っている。内容はいつでも確認でき、参加できなかった職員にも報告できるように、議事録を残して申し送りもしている。	担当職員でなくても参加できるようにイベント・行事等との合同開催を行うなど、会議での意見や情報がさらにホームにおけるサービスの質の向上に活かされるような工夫を続けることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の受け入れを行っている。 介護相談員の方の意見を聞き、見直しを行っている。	
			(外部評価) 市担当者には、生活保護を受給している利用者の介護計画を作成する際に、本人にとって適切な計画となっているかどうかについての意見をいただくなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) マニュアルを作り、職員全員が目を通し学習している。 点滴で見守りが必要な場合は、家族さんに協力をお願いしている。 玄関はセンサーを付けており、一緒に勤務している職員がお互いに気を配って見守りを行い、鍵をかけなくてもいいようにしている。	
			(外部評価) 利用者の落ち着かない様子を察知したら、さりげなく声をかけるなど、職員の連携により安全面に配慮しながら自由な暮らしができるよう支援している。身体拘束に関するマニュアルを整備し、職員は見守りの大切さを常に意識している。玄関は防犯上の目的から夜間のみ施錠している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、マニュアルを作成し職員全員が目を通し、高齢者の尊厳についての意識を再確認し虐待防止に努めている。 職員同士で注意し合ったり、管理者からの指導を受けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、学んでいる。研修に参加できなかった職員には報告しホーム内で学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネや職員が詳しく説明し、何度でも質問に対応し不安のないようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談員の訪問や目安箱を用意して表せる機会を持っている。苦情受け付けは管理者が行っている。相談・苦情内容は、管理者・計画作成者や担当者で報告、話し合い改善に努めている。 (外部評価) 何でも話してもらえるよう、職員は明るい笑顔や対応を心がけており、家族から職員が気づかないことや要望など、貴重な意見をいただいている。今後はさらに外部機関の苦情申し立て先を明示して説明する予定である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者と職員間で、ミーティングや申し送りなどで行っている。 (外部評価) 管理者は、職員に「何かあったら確認する」ことを求めている。職員は、質問に対して適切な返答があることにより安心できる。情報を共有し、意見を運営に反映させるため、職員同士でも話し合える関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 運営者は職員の勤務状況や努力を把握し、各自にあった声かけを行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各自の立場、経験に合わせ研修などに参加し技術・知識を身につけている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 講習会や勉強会などに参加し、他の施設との意見交換など行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人からの話をよく聞き、その人の立場になって考え安心してもらえるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族等の話をよく聞き、要望に応えられるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分な話し合いを行い、より良い方法を考え信頼関係を築けるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理の味見をしてもらうなどし、色々教えてもらう事で共に学び生活できるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や月1回の手紙などで、利用者さんの状況を報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族さんから、生活歴を聞き行事に活かしている。	
			(外部評価) 毎月行われる隻手薬師祭りに参拝した際に偶然に出会ったことがきっかけとなって、近所の方がホームを訪れてくれるようになったことは利用者の喜びに繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの性格を把握し、より良い関係ができるように配慮している。 座る位置なども考慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了してもアフターフォローをし、いつでも相談にのれるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望に添うように努力し、本人の気持ちになって考え行っている。 (外部評価) 農業をしていた利用者が多く、畑仕事をしたいという気持ちがあるため、鍬を使うなどできることをしている姿はいきいきしている。言葉で表現することが難しい利用者の思いや意向も、表情や行動から把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族さんから生活歴を聞き、スタッフ全員で把握しサービスに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとり、カルテ・経過表・行動チェック表に記入し日々の生活をチェックしている。本人のできる力を発見した際は、スタッフ全員に情報を共有し活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケアプランを見直している。状態の変化によってモニタリングを行い、管理者・主治医やケアマネ、職員でより良いサービスの向上を目指している。時には家族さんも出席して話し合いを持っている。 (外部評価) 介護計画を作成し、家族に説明して同意を得ている。また、具体的な介護内容を決め、施設介護支援経過表に実際のケア内容を記録し、3か月に1回の評価・見直し時に役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日、利用者さんごとにカルテや経過表を記入し全員が把握しケアプランの作成や日々の介護に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) できるだけ本人の希望に添うようにしている。困難な場合は本人の主体性を尊重し、より良い決定ができるよう助言している。 柔軟な支援やサービスができるよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を聞き職員全員が把握し地域の行事に参加したり、それを中心にした話題やミニデイを開いたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体が病院であるため、綿密に連携がとれている。 月2回の定期的な往診以外にも、必要時に往診や訪問 看護を受けられる体制となっている。 (外部評価) かかりつけ医は母体の医療法人となっており、利用者 及び家族にも安心な体制を整えている。歯科・眼科・ 整形外科等の受診も、協力医療機関において適切に対 応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホーム内に看護師がいるため、日常の健康管理ができ ている。病院内の看護師も利用者さんのことを把握し ているので、医療面でも支援できている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、情報を介護要約書や電話連絡にてスム ーズに提供し、綿密な連絡をとっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族さんの意向を聞き、主治医やケアマネ、職 員や家族間で話し合い方針を立てている。 (外部評価) 看取りの経験は多く、ホームで通夜をしたこともあ る。職員への看取りに関する教育・指導に力を入れて いる。指針を作成し、入所時に利用者及び家族に説明 して希望を確認した上で同意書を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当や対応などの講習を受け職員全員が実践力を身に付けている。 利用者さんの状態が変化した時など緊急時には、適切な医療が受けられるよう主治医が手配してくれる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練では、消防署の方に来てもらい講習を受けたり指導をしてもらっている。ボランティアの受け入れをしている。推進委員会には、包括支援センターの方や区長さんに参加してもらって意見交換を行っている。 (外部評価) 年2回、昼間を想定して訓練を実施している。管理者は火元に注意して火を出さないことを徹底しており、近くスプリンクラーも設置する予定となっている。	運営推進会議と災害訓練を合同で行う、夜間も想定しての訓練を実施するなど、より実践的な訓練の継続が望まれる。緊急連絡網を使った訓練についても定期的な確認を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に気配りを行い、丁寧な言葉使いを心がけている。特に排泄面では気をつけている。また、職員同士で適切ではない場合は注意し合うようにしている。 (外部評価) 居室への入室時は必ずノックや声かけをするなど、利用者の尊厳を大切にした言葉かけ、呼び方、対応等に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「受容」の姿勢を心がけ、利用者さんのやりたいことに耳を傾け、できることを見極めケアプランにも盛り込んで日課として取り組んでいる。些細なことでも続けることで満足感を持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のペースに合わせて声かけをしている。入浴など、拒否がある時は時間をおいたり、日をずらしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者さんの希望に添って対応している。家族さんと一緒に散髪に行かれたりもしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 1日の献立を発表したり、職員も一緒に食事をとり感想などを聞きコミュニケーションをとっている。 (外部評価) 献立は、母体の医療機関で栄養士が作成したメニューを基本にしているが、利用者の嗜好に合わせて、祭り・正月などの行事食を取り入れるなど工夫している。刻み食など、利用者の状態に応じた食事形態を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バイタル表に記入し、1日トータル量がわかるようにしている。食事や水分量が少ない時は、バイタル表を見ながら対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者さんの状態に応じた口腔ケアを行っている。クルリーナや舌ブラシ、ガーゼなどをそれぞれの状態に応じて使用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりのできる力に合わせた支援を行っている。排泄パターンを把握している。失禁のないように排泄時間を記入して誘導している。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄パターンを把握した上で、声かけや誘導をしている。便秘等の場合は医師に連絡して適切に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じて、排便コントロールしている。飲み物のチェックや食材に気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者さんの希望に添って対応している。状態の不安定な人や拒否のある人に対しては、翌日に変更したり無理のないようにしている。	
			(外部評価) 週2回は入浴してもらえるよう支援し、一人ひとりの希望に柔軟に対応するため、毎日でも入浴できるよう準備している。リフト浴の設備もある。拒否する利用者にも、様子をみながら声かけ等を工夫して、納得して入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも休めるように、居室やホール内をオープンにしている。夜間は、眠たい時に声かけをしたり誘導するなどして利用者さんのペースに合わせている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬についての表があり、薬に変更等があれば確認し、いつでも対応できるようにしている。 薬の管理、服薬は職員が介助している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物がたためる方はタオルなどをたたんでもらい、台拭き（テーブル）ができる方はしてもらっている。 毎朝の体操時に歌をうたっており笑顔もみられている。毎朝、日めくりをするのを日課にされている方もいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お天気の良い日に個人で散歩したり、他館に行き利用者さんと会話をしたりしている。家族の方が面会に来られると楽しく話をされている。	
			(外部評価) ホーム南面に広い庭があり、日向ぼっこをしたり、体操や歌なども楽しんでいる。2日に1回は家族と出かける利用者もいる。コンビニエンスストアやスーパーに買い物に行ったり、家族の協力を得て花見に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 認知症の進行に伴い、現在お金の管理が自身で出来る方がいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんの希望がある時は電話をしている。現在は手紙のやり取りをしている方はいない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花を飾ったり、季節に応じた飾り物を利用者さんと一緒に作ったり、馴染みのあるものを飾ったりして工夫している。家族さんが花や野菜を持って来てくれるので、飾ったり献立に盛り込んで利用者さんと会話をしている。</p> <p>(外部評価) どこからでもよく見え、見守りが行き届くよう工夫された設計となっている。居間には、季節感を盛り上げるための飾り付けを一つひとつ丁寧にやっている。利用者は、我が家にいるような落ち着いた雰囲気の中で充実した日々を過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 日中はソファでくつろいだり、利用者さん同士で話している。ソファに座る位置が自然に決まっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 以前からご自分で使用されていた馴染みの物を置いたり、居心地良く過ごせるように配慮している。</p> <p>(外部評価) ベッド、和式の布団タイプなどを好みや機能に応じて個別に選択している。利用者が本当に必要と思うものが持ち込まれ、ほっと一息つける快適な空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせて利用者さんが安心して暮らせるよう、職員が常に見守りを行っている。側面からの援助を心がけている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300283
法人名	医療法人 辻井循環器科内科
事業所名	グループホーム つじい
所在地	東温市田窪253番地2
自己評価作成日	平成 21 年 11 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 12月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康管理が行き届いている。
職員がまじめに努力し精一杯対応していて好感が持てる。
精神面・健康面をトータルでサポートしてくれる。
家庭的でさびしくなく、穏やかに過ごされている。
環境も良く落ち着いた雰囲気もあり明るいホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人のため、24時間体制での連携が整備されている。きめ細かい健康管理や、緊急時の迅速な対応が可能なことは、利用者や家族にとって安心できる。開設から約8年を経過し、利用者も職員も定着して落ち着いた生活を送っている。南面に広い庭があり、自然の空気に触れたり、天気の良い暖かい時間にはひなたぼっこ、体操、歌など、利用者は穏やかに自由に過ごしている。職員は、明るく元気のよい挨拶を心がけ、利用者一人ひとりを尊重することを常に忘れない姿勢でケアにあたっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つじい

(ユニット名) 東館1階

記入者(管理者)
氏名 辻井 浩子

評価完了日 21 年 11 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 一人ひとりの個性を尊重し、地域に密着した生活を支援していくことを理念とし、地域と密着したグループホームを目指すことをあげている。</p> <p>(外部評価) 「利用者の個性を尊重し、地域と共に共存し生活する」をホーム開設時より社訓として掲げている。より具体化した理念の中にも「地域との交流を大切にする」ことを含めている。管理者を中心に全職員は、理念を共有して実践につなげられるよう、日々努力している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭、敬老会、文化祭などの地域の行事に、利用者と共に参加したり、来訪により交流を持っている。管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声掛けあったり、気軽に立ち寄ってもらえるように、日常的に努めている。</p> <p>(外部評価) 神社の夏祭り、秋祭りの獅子舞、亥の子、市民運動会等の地域行事に参加したり、どんと焼きにも区長さんの声かけのおかげで参加できるようになっている。気分転換の散歩の途中に挨拶を交わしたり、近隣の方から季節の作物を届けてもらうなど、交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症に対する介護方法や理解などの相談にいつでものれるようにしている。ボランティア、研修の受け入れ体制がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議で出た貴重な意見を取り上げ、管理者や職員間で話し合い、サービスの向上に活かしている。報告書は会議参加者全員に配布している。	
			(外部評価) 外部評価の内容報告やホームの課題について話し合っている。内容はいつでも確認でき、参加できなかった職員にも報告できるように、議事録を残して申し送りもしている。	担当職員でなくても参加できるようにイベント・行事等との合同開催を行うなど、会議での意見や情報がさらにホームにおけるサービスの質の向上に活かされるような工夫を続けることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進委員会などで交流を持っている。	
			(外部評価) 市担当者には、生活保護を受給している利用者の介護計画を作成する際に、本人にとって適切な計画となっているかどうかについての意見をいただくなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で、精神興奮時や暴力行為のみられる利用者に対して身体拘束をしない方法での対応について、話し合い、常に身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 利用者の落ち着かない様子を察知したら、さりげなく声をかけるなど、職員の連携により安全面に配慮しながら自由な暮らしができるよう支援している。身体拘束に関するマニュアルを整備し、職員は見守りの大切さを常に意識している。玄関は防犯上の目的から夜間のみ施錠している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し学んでいる。制度内容はミーティングなどで説明したり、内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで学び、報告書を作成して職員に内容を説明している。内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、職員が詳しく説明をし、質問にも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進委員会の家族さんの参加により、意見や要望を受けています。日常においては、利用者や家族さんからの意見や要望は、いつでも受け付け、対応は管理者が行い計画担当者間で報告しあっている。 (外部評価) 何でも話してもらえよう、職員は明るい笑顔や対応を心がけており、家族から職員が気づかないことや要望など、貴重な意見をいただいている。今後はさらに外部機関の苦情申し立て先を明示して説明する予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的にミーティングを行い、管理者と職員間で話し合いをする機会を設けている。朝の申し送り時に管理者がそれぞれの意見や提案を聞く機会を持っている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、職員に「何かあったら確認する」ことを求めている。職員は、質問に対して適切な返答があることにより安心できる。情報を共有し、意見を運営に反映させるため、職員同士でも話し合える関係が築かれている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員同士お互いが協力し合い、時には競い合って働けるような勤務体制を心がけている。職員それぞれの得意な分野が活かせるようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外部の研修会に積極的に参加し、報告会を持っている。研修資料は全員が目を通し、レポートを書いている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 各種講習会や勉強会には積極的に参加し報告会をも開いている。外部研修の受講時に同業者と交流を持ち、他のホームの取り組みを参考にしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) まず本人の話をよく聞き、相槌を打ち、こちらも理解していることを分かってもらうようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、現場の職員と家族間で綿密にモニタリングを行い、家族の方の不安や心配事を聞きとるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面接において十分に話し合い、利用者や家族の意向に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理や畑仕事など、利用者にいる教えていただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の生活状況を家族に伝えたり、話をすることでコミュニケーションをとり信頼関係を作り、本人を支える関係に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の生活歴を本人や家族さんに聞き、行事に活かしている。神社などのお参りにも行っている。 (外部評価) 毎月行われる隻手薬師祭りに参拝した際に偶然に出会ったことがきっかけとなって、近所の方がホームを訪れてくれるようになったことは利用者の喜びに繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格を把握し、より良いコミュニケーションがとれるよう着席などにも配慮している。自然と仲間意識が芽生え、お互いに助け合う場面が食事中や洗濯たたみの時等にみられる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了の際もきめ細かく引き継ぎ、説明を行い、アフターフォローをし、いつでも相談にのれるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来るだけ本人の希望に添う様にしている。困難な場合は本人の主体性を尊重し、より良い決定が出来るように助言している。会話の困難な利用者については、家族や利用者をよく知る関係者から情報を得て本人立場に立って考えるようにしている。	
			(外部評価) 農業をしていた利用者が多く、畑仕事をしたいという気持ちがあるため、鍬を使うなどできることをしている姿はいきいきしている。言葉で表現することが難しい利用者の思いや意向も、表情や行動から把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や本人から利用者の生活歴を聞き、職員全員が把握し地域の行事に参加したり、それを中心にした話題やミニディを開いたりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人ごとのADL表やフェースシートに目を通してしている。毎日個人毎に経過表を記入し、どのように一日を過ごしたか、全員が把握できるようになっている。会話や行動、態度などを通して本人の希望やしたいと思っていることを察して援助するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) アセスメントに基づいて、利用者主体の目標を立てている。ミニカンファレンスで、本人や家族の意見や要望を聞き、その後、医師、看護師等も加わったカンファレンスで話し合い、本人本位の介護計画を作成している。サービス内容は、具体的なものになっている。</p> <p>(外部評価) 介護計画を作成し、家族に説明して同意を得ている。また、具体的な介護内容を決め、施設介護支援経過表に実際のケア内容を記録し、3か月に1回の評価・見直し時に役立てている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 経過表を記入し、ケア行動計画の実施状況を毎日チェックし、評価することで、状態変化をすぐに察知できるようにしている。特別変化のあったことは、日誌に記入し、申し送り、職員間で情報を共有している。3か月に一度、見直しをしているが、状態変化があればその都度、カンファレンスを開き新たに作成している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の要望や意見をカンファレンスで取り入れるようにしている。ホームに空きがある場合はショートステイを受け入れたり、デイサービスをも行っている。関連デイケアの活動に参加するなど、利用者の生活に広がりを持っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 他事業所を連携をとり、福祉用具のレンタルなど利用者一人ひとりに合わせたサービス提供を行っている。消防署、警察や地域包括センターなどの機関や民生委員やボランティア等と協力しながら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>母体が診療所の為、入居前から、ほとんどの方がかかりつけ医であり、本人、家族は納得されている。定期的には往診や必要時に往診や訪問看護を受けられる体制にある。主治医が利用者の状態を把握できるように詳しく記録し提示している。緊急の際はすぐに対応できるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>かかりつけ医は母体の医療法人となっており、利用者及び家族にも安心な体制を整えている。歯科・眼科・整形外科等の受診も、協力医療機関において適切に対応している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>管理者が看護師の為、相談はいつでもできる。診療所の看護師とは顔馴染みの為、いつでも相談に乗ってもらえる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には、情報を介護要約書や電話連絡にてスムーズに提供し、綿密な連絡をとっている。定期的に面会し状態を把握し、受け入れ態勢を整えている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族の意向を聞き、主治医やケアマネ、職員や家族間で話し合い方針を立てている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>看取りの経験は多く、ホームで通夜をしたこともある。職員への看取りに関する教育・指導に力を入れている。指針を作成し、入所時に利用者及び家族に説明して希望を確認した上で同意書を得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルがあり、職員全員が目を通し学習している。管理者から定期的に指導がある。AEDの設置にともない、使用方法の説明を受けている。AEDの点検は毎日行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火訓練を定期的に行っている。緊急連絡網をつくり、全員に配布している。日中と夜間別の緊急連絡網の作成を考えている。 (外部評価) 年2回、昼間を想定して訓練を実施している。管理者は火元に注意して火を出さないことを徹底しており、近くスプリンクラーも設置する予定となっている。	運営推進会議と災害訓練を合同で行う、夜間も想定した訓練を実施するなど、より実践的な訓練の継続が望まれる。緊急連絡網を使った訓練についても定期的な確認を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に気配りを行い、丁寧な言葉使いを心掛けている。特に排泄面では、気を付けている。又、職員同士でお互い注意し合うようにしている。 (外部評価) 居室への入室時は必ずノックや声かけをするなど、利用者の尊厳を大切に言葉かけ、呼び方、対応等に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「受容」の姿勢を心がけ、利用者の希望に耳を傾け、出来る事を見極め、ケアプランにも盛り込んで、日課として取り組んでいる。些細なことでも、毎日続けることで、満足感を持っている。職員がすぐに答えを出すのではなく、うまく本人が決定できるような声掛けや場面をつくっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事や入浴、就寝など一人ひとりのペースに合わせて、支援している。外出や買い物などの希望もその都度支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に添って対応している。家族と美容室に出かけたり、家族が散髪されているところもある。又、月に1回美容師が来られる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一日の献立を発表したり、食べたい物や調理方法など、利用者さんに聞いたりしている。職員も一緒に食事を摂り、感想などを聞き、次の献立や調理方法に活かしている。食事の準備、片付けを利用者が手伝ってくれる。ユニット毎に検食表を付け、より良い献立作りに努めている。	
			(外部評価) 献立は、母体の医療機関で栄養士が作成したメニューを基本にしているが、利用者の嗜好に合わせて、祭り・正月などの行事食を取り入れるなど工夫している。刻み食など、利用者の状態に応じた食事形態を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人別に水分、食事摂取表を付け、一日を通して摂取量が確保できるよう、職員が把握できるようになっている。水分は一日1200mlの摂取を目安にしている。食事量が少ない場合は栄養価の高い食品や飲み物をお勧めしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた口腔ケアを行っている。歯ブラシ、クリーナーや舌ブラシ、ガーゼなど、それぞれ合ったものを使用し、出来ない方への支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーに配慮し、一人ひとりの出来る力に合わせた支援を行っている。排泄パターンを把握しより良い援助が出来るように職員間で話し合いを持っている。失禁を減らすよう、排泄時間を記入するなどして早めの対応をしている。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄パターンを把握した上で、声かけや誘導をしている。便秘等の場合は医師に連絡して適切に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医に相談し、一人ひとりの状態に応じて、排便コントロールしている。飲み物や、食材に気を付けている。便秘時には、腹部マッサージを行ったり、起床時に冷水を飲んでもらったりして、排便を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に添って臨機応変に対応している。状態の不安定な利用者や拒否のある利用者に対して、時間をおいたり、翌日に変更したりと無理のないようにしている。西館にリフト浴の設備があるので、必要な方は利用している。利用者の状態で入浴出来ない時は、清拭やシャワー浴をして清潔を保持している。	
			(外部評価) 週2回は入浴してもらえよう支援し、一人ひとりの希望に柔軟に対応するため、毎日でも入浴できるよう準備している。リフト浴の設備もある。拒否する利用者にも、様子をみながら声かけ等を工夫して、納得して入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも、休息がとれるように居室やホール内をオープンにしている。夕食前に睡眠体操を行い、安眠を誘っています。昼夜逆転がないように日中の活動に気を付けている。夜間の明るさ、利用者への声かけに気を付けています。不眠傾向のある利用者は、睡眠時間を赤線で記入して、睡眠パターンを把握しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬についての表があり、薬に変更があった時は目を通し、薬の効能などいつでも把握できるようにしている。ADLの低下により、服薬の管理、服薬援助は職員が行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の好きな方は、洗濯たたみや掃除をしている。歌の好きな方はミニデイなどで、カラオケをしたり、体操時に皆の前で歌ったりして笑顔が見られる。毎朝の日めくりを日課にして楽しみにされている。本がいつでも読めるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物など、本人の希望に添っている。家族との外出も自由にしてもらっている。大勢での外出は家族にも声掛け、協力をお願いしている。毎月の隻手薬師参拝も支援している。 (外部評価) ホーム南面に広い庭があり、日向ぼっこをしたり、体操や歌なども楽しんでいる。2日に1回は家族と出かける利用者もいる。コンビニエンスストアやスーパーに買い物に行ったり、家族の協力を得て花見に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在、認知症の進行に伴い、お金の管理がご自分で出来る方はいませんが、職員のお金の管理の元におやつなどご自分の買い物したい物を選んでもらい、支払は利用者にしてもらっている。利用者の希望で、職員が買ってくることもある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望がある時は、電話をしていただいています。現在手紙のやり取りをされている方はいません。毎年賀状や、暑中見舞いのはがきをホームから家族と利用者へ送り、利用者と一緒に読んだり、居室の見える所に貼っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花を飾ったり、家族が花や野菜を持ってきてくれるので、飾ったり、献立に盛り込んで利用者との会話もはずんでいる。居室やホールからの外の眺めも良く、おだやかに過ごされています。夏場の外での体操の時など、強い日差しを避ける為に、日よけテントを設置しました。</p> <p>(外部評価) どこからでもよく見え、見守りが行き届くよう工夫された設計となっている。居間には、季節感を盛り上げるための飾り付けを一つひとつ丁寧にしている。利用者は、我が家にいるような落ち着いた雰囲気の中で充実した日々を過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 強要せずに、ご本人の居たい場所で過ごしてもらっている。日中は、ソファでくつろいだり、利用者同士で話をしている。又、他の館の方との交流もあり、いつでも行きき出来るように支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 以前からご自分で使用されていた、馴染みの物を置いたり、写真を飾ったり、家族が持ってこられるものを居室に置き、居心地良く過ごせるように配慮している。</p> <p>(外部評価) ベッド、和式の布団タイプなどを好みや機能に応じて個別に選択している。利用者が本当に必要と思うものが持ち込まれ、ほっと一息つける快適な空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレ、浴室、廊下に手すりを付けたり、居室やホールに危険なものがないか確認し配置を考えている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300283
法人名	医療法人 辻井循環器内科
事業所名	グループホーム つじい
所在地	東温市田窪253番地2
自己評価作成日	平成 21 年 11 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 12月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康管理が行き届いている。
職員がまじめに努力し精いっぱい対応できていて好感が持てる。
精神面・健康面トータルでサポートしてくれる。利用者は楽しく笑いあひながら毎日を送っている。
家庭的で寂しくなく温和に過ごしている。環境もよく落ち着いた雰囲気もあり明るいホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人のため、24時間体制での連携が整備されている。きめ細かい健康管理や、緊急時の迅速な対応が可能なことは、利用者や家族にとって安心できる。開設から約8年を経過し、利用者も職員も定着して落ち着いた生活を送っている。南面に広い庭があり、自然の空気に触れたり、天気の良い暖かい時間にはひなたぼっこ、体操、歌など、利用者は穏やかに自由に過ごしている。職員は、明るく元気のよい挨拶を心がけ、利用者一人ひとりを尊重することを常に忘れない姿勢でケアにあたっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つじい

(ユニット名) 東館2階

記入者(管理者)
氏名 辻井 浩子

評価完了日 21年 11月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ホームの運営理念や役割が地域に理解されるように、地域と密着したグループホームを目指すことをあげ、実践を促している。</p> <p>(外部評価) 「利用者の個性を尊重し、地域と共に共存し生活する」をホーム開設時より社訓として掲げている。より具体化した理念の中にも「地域との交流を大切にする」ことを含めている。管理者を中心に全職員は、理念を共有して実践につなげられるよう、日々努力している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭、敬老会、文化祭等の行事に参加したり、隣近所の人にも気軽に立ち寄ってもらえるように、努めています。</p> <p>(外部評価) 神社の夏祭り、秋祭りの獅子舞、亥の子、市民運動会等の地域行事に参加したり、どんと焼きにも区長さんの声かけのおかげで参加できるようになっている。気分転換の散歩の途中で挨拶を交わしたり、近隣の方から季節の作物を届けてもらうなど、交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症に対する理解やかかわり方についての相談対応、ボランティア、研修の受け入れ等に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営委員会で出た貴重な意見を取り上げ、職員間で話し合い、報告書を作成し会議参加者に配布している。	
			(外部評価) 外部評価の内容報告やホームの課題について話し合っている。内容はいつでも確認でき、参加できなかった職員にも報告できるように、議事録を残して申し送りも行っている。	担当職員でなくても参加できるようにイベント・行事等との合同開催を行うなど、会議での意見や情報がさらにホームにおけるサービスの質の向上に活かされるような工夫を続けることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進委員会等で交流を持っている。	
			(外部評価) 市担当者には、生活保護を受給している利用者の介護計画を作成する際に、本人にとって適切な計画となっているかどうかについての意見をいただくなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 精神興奮時や暴力行為のみられる利用者に対して身体拘束をしない方法での対応について、話し合い、常に身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 利用者の落ち着かない様子を察知したら、さりげなく声をかけるなど、職員の連携により安全面に配慮しながら自由な暮らしができるよう支援している。身体拘束に関するマニュアルを整備し、職員は見守りの大切さを常に意識している。玄関は防犯上の目的から夜間のみ施錠している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し、内容資料を回覧にて職員全員が把握できるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し学んでいる。報告書を作成して内容説明を行い、職員全員が把握出来るようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約の際は管理者、ケアマネや職員が詳しく説明し質問にも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者さんや家族さんからの要望は、いつでも受け付け、対応は管理者が行い計画担当者間で報告しあっている。 (外部評価) 何でも話してもらえよう、職員は明るい笑顔や対応を心がけており、家族から職員が気づかないことや要望など、貴重な意見をいただいている。今後はさらに外部機関の苦情申し立て先を明示して説明する予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にミーティングを行い、管理者と職員間で話し合い、朝の申し送り等を行っている。 (外部評価) 管理者は、職員に「何かあったら確認する」ことを求めている。職員は、質問に対して適切な返答があることにより安心できる。情報を共有し、意見を運営に反映させるため、職員同士でも話し合える関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員同士お互いが協力し合い、それぞれの得意分野が生かされるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各自の立場、経験に合わせて研修などに参加し技術、知識を身につけている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種講習や勉強会には積極的に参加し報告会を開いている。意見交換を行い交流を深めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) まず本人の話をよく聞き、相づちを打ち、こちらも理解をしている事を分かってもらえるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族と十分な情報交換と話し合いを行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族さんの質問や相談内容にはその日のうちに返答が出来る様に敏速に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理の味付けを教えてもらったり一緒に洗濯物をたたんだりと共に生活し分かち合える場所を作っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に利用者さんの普段の生活を報告したり、月に一度手紙にて報告しています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族さんから生活歴を聞き行事に生かしている。 (外部評価) 毎月行われる隻手薬師祭りに参拝した際に偶然に出会ったことがきっかけとなって、近所の方がホームを訪れてくれるようになったことは利用者の喜びに繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の性格を把握し、より良いコミュニケーションを取れるよう食事中や洗濯たたみの時などに多く持てるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了の際も、引継ぎ説明しアフターフォローに気をつけている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来るだけ本人の希望に添うようにし、常に受け身の姿勢で利用者さん本人の立場になって考えるようにしている。 (外部評価) 農業をしていた利用者が多く、畑仕事をしたいという気持ちがあるため、鍬を使うなどできることをしている姿はいきいきしている。言葉で表現することが難しい利用者の思いや意向も、表情や行動から把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族さんから生活歴を聞き職員全員が把握し、ミニデイ等開いたりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 会話や行動、態度など通して本人の希望やしたいと思っていることを察して状態を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) アセスメントに基づいて利用者さんの目標を立て、ミニカンファレンスで家族さんの意見や要望を聞き、その後主治医、ケアマネ等加わりカンファレンスを行い介護計画を作成している。 (外部評価) 介護計画を作成し、家族に説明して同意を得ている。また、具体的な介護内容を決め、施設介護支援経過表に実際のケア内容を記録し、3か月に1回の評価・見直し時に役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人別に経過表を作成し、言動やケアの実践状況を記録し、申し送り、職員間で情報を共有している。3か月に一度、見直しをしている。状態変化があればその都度新たに作成している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族さんの要望や意見をカンファレンスで取り入れるようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 福祉用具のレンタル等利用者一人一人に合わせたサービスの提供をおこなっている。消防署、警察や地域包括センターなどの機関や民生委員やボランティアなど協力しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 定期的に往診があり、必要時に往診や訪問看護を受けられる態勢にある。主治医が利用者の状態が把握出来るように詳しく記録している。緊急の際はすぐ対応出来るようにしている。</p> <p>(外部評価) かかりつけ医は母体の医療法人となっており、利用者及び家族にも安心な体制を整えている。歯科・眼科・整形外科等の受診も、協力医療機関において適切に対応している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 管理者が看護師の為、相談はいつでも出来る。診療所の看護師とは顔なじみの為、いつでも相談に乗ってもらい、支援が行きとどいている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は、情報交換がスムーズに行くように介護要約書にて報告したり、電話連絡を行い綿密に連絡をとりあっている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 主治医や管理者、ケアマネ、職員や家族間で話し合い家族や本人の意向を尊重し取り入れられるよう配慮し方針を立てている。</p> <p>(外部評価) 看取りの経験は多く、ホームで通夜をしたこともある。職員への看取りに関する教育・指導に力を入れている。指針を作成し、入所時に利用者及び家族に説明して希望を確認した上で同意書を得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルがあり、職員全員が目を通して いる。AEDの設置にともない、使用方法の説明を受け ている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	(自己評価) 防火訓練を定期的に行っている。緊急連絡網を作成し 全員に配布している。 (外部評価) 年2回、昼間を想定して訓練を実施している。管理者 は火元に注意して火を出さないことを徹底しており、 近くスプリンクラーも設置する予定となっている。	運営推進会議と災害訓練を合同で行う、夜間も想定し ての訓練を実施するなど、より実践的な訓練の継続が 望まれる。緊急連絡網を使った訓練についても定期的 な確認を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライ バシーを損ねない言葉かけや対応をしてい る	(自己評価) 常に気配りを行い、尊敬、尊重した態度、言葉使いで 接するように心がけている。 (外部評価) 居室への入室時は必ずノックや声かけをするなど、利 用者の尊厳を大切に言葉かけ、呼び方、対応等に 努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表した り、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「整容」の姿勢を心がけ、利用者さんの意見に耳を傾 け、本人の好きな事ややりたいことをケアプランに盛 り込んで日課として取り組んでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースに合わせて自分が選択できるような機会を持ち、また自分の希望を選ばれるようにその都度支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に合わせて対応している。月に一度理容師さんに来ていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者さんに食べたい物や調理方法など聞いたりしている。季節やイベントに合った献立作りに努めている。食事のかたづけ等利用者さんが手伝ってくれる。 (外部評価) 献立は、母体の医療機関で栄養士が作成したメニューを基本にしているが、利用者の嗜好に合わせて、祭り・正月などの行事食を取り入れるなど工夫している。刻み食など、利用者の状態に応じた食事形態を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の水分、食事摂取量を記録し、1日をどうして摂取量が確保できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者さんの口腔状態に応じた口腔ケアを対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーには十分配慮し、本人の出来る力に合わせた排泄の支援を行っている。排泄時間を記入するなどして対応しています。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄パターンを把握した上で、声かけや誘導をしている。便秘等の場合は医師に連絡して適切に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医に相談し、一人ひとりの状態に応じて、排便コントロールしている。飲み物や食材に気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者さんの希望に添って臨機応変に対応している。状態不安定な利用者さんや拒否のある時は、時間をおいたり翌日に変更したりと無理のないように対応している。	
			(外部評価) 週2回は入浴してもらえよう支援し、一人ひとりの希望に柔軟に対応するため、毎日でも入浴できるよう準備している。リフト浴の設備もある。拒否する利用者にも、様子をみながら声かけ等を工夫して、納得して入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも休息がとれるように居室やホール内をオープンにしている。夕食前には睡眠体操を行い、安眠を誘っています。昼夜逆転にならないように、日中の活動に気をつけています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ADLの低下に伴い職員が管理し服薬援助を行っている。薬剤情報がいつでも見られるように保管している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の好きな方は、洗濯たみや洗い物などのお手伝いをしていただいている。本の好きな方にはいつでも読めるようにしている。塗り絵やちぎり絵などをさせています。カラオケをいつでもかけられるようにして唄われたりさせています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人の希望に添って、家族さんとの外出も自由にしてもらっている。毎月の片手薬師の参拝も支援している。	
			(外部評価) ホーム南面に広い庭があり、日向ぼっこをしたり、体操や歌なども楽しんでいる。2日に1回は家族と出かける利用者もいる。コンビニエンスストアやスーパーに買い物に行ったり、家族の協力を得て花見に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者さんと一緒に買い物にいかれ、ご自分の好きなおやつを選び支払いをしてもらっています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんの希望がある時は電話をしていただいています。友人からかかってくる時もあります。毎年賀状や暑中見舞いのはがきをホームから家族さんと利用者さんに送り、居室の見えるところに貼っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を感じてもらえるように、季節の花や絵を飾っている。共有スペースで寛いでいただけるよう音楽をかけたり、自分の家のようなふいんきづくりにつとめている。	
			(外部評価) どこからでもよく見え、見守りが行き届くよう工夫された設計となっている。居間には、季節感を盛り上げるための飾り付けを一つひとつ丁寧にやっている。利用者は、我が家にいるような落ち着いた雰囲気の中で充実した日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自室とホールを行ったりきたり出来るような配置になっており、入居さん一人一人が好きな場所、落ち着ける場所で過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者さんの趣味のもの、好みのものに囲まれて暮らせるように、以前から使用されていた愛着のあるものをホームでも、使用していただいている。	
			(外部評価) ベッド、和式の布団タイプなどを好みや機能に応じて個別に選択している。利用者が本当に必要と思うものが持ち込まれ、ほっと一息つける快適な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者さん一人一人の出来ることを見つけ、それを維持できるよう職員間で話し合い、ケアプランを作成している。	